



国際図書館コンソーシアム連合の 活動

- ICOLC#14の報告を中心に -

千葉大学附属図書館

尾城 孝一

ojiro@ll.chiba-u.ac.jp

ICOLCとは



- ICOLC: International Coalition of Library Consortia
- 図書館コンソーシアムの非公式連合(1997年～)
- 160以上のコンソーシアムが参加(北米, ヨーロッパ, オーストラリア, アジア及びアフリカ)
- 国立大学図書館協議会(2001年～)

ICOLCの使命



- メンバー・コンソーシアムに対する情報提供
 - 電子情報資源
 - 出版者や情報供給業者の価格ポリシー, ライセンシング
 - コンソーシアム管理運営上の諸問題

ICOLCを支える2人



Tom Sanville
(Executive Director, OhioLink)

Ann Okerson
(Associate University Librarian, Yale University)



ICOLCの活動



- Meetingの開催
 - ICOLC (北米中心)
 - 1997年以来, 年2回
 - e-ICOLC (ヨーロッパ中心)
 - 1999年以来, 年1回
- ホームページ
 - <http://www.library.yale.edu/consortia/>
 - 非公開ページ
- メーリングリストの運営

主なガイドラインと声明



- 「提案条件の要求と契約交渉における技術的諸問題に関するガイドライン」(1999.1)
- 「電子的情報の選択と購入をめぐる現在の情勢と望ましい方向への実行策に関する声明(改定)」(2001.12)
- 「ウェブベースの情報資源の利用に関する統計的測定のガイドライン(改定)」(2001.12)

ICOLC#14



- 2003年9月15日～16日, 米国ラホーヤにて開催
- 参加者91名(米国75名、カナダ8名、日本3名、オーストラリア2名、香港2名、英国1名), 61コンソーシアムの代表
- 日本からの参加者
松本和子(慶應義塾大学), 井上修(三重大学), 尾城孝一(千葉大学)

ICOLC会合の構成



- グリル
 - Grille: 厳しい尋問
 - 出版者やベンダーのプレゼンテーションと質疑応答
 - これまでに, 76社を対象とした109回のグリルを実施
- 討議トピック
- パネルディスカッション
- 運営協議 (ビジネスセッション)

Agenda(9/15)



- ebooks.comグリル
- Classical.comグリル
- パネル・ディスカッション及び全体討論
 - 電子ジャーナルのアーカイビングについて
- 活動報告及び活動計画
 - Vanderbilt University Television News Archive (VTVNA) について
 - COUNTERプロジェクトの会員制度について
 - Project Euclid (コーネル大学) の概要と活動報告について
 - American Association for the Advancement of Science (AAAS) との折衝報告 (価格モデル, 経営状態等) について
- Ebscoグリル
- AGUグリル
- 討議トピック
 - A (e-ILLの現状とその促進について)
 - B (コンソーシアムメンバー館間でのコスト分担について)

Agenda(9/16)



- Swetsグリル
- ALPSPグリル
- パネル・ディスカッション及び全体討論
 - コンソーシアムと雑誌取次業者との関係について)
- 討議トピック
 - C(電子ブックの価格モデル)
 - D(UCITA等の法制上の脅威について)
- Project MUSEグリル
- 活動報告及び活動計画
 - ICOLC声明の改訂について
 - アーカイブに関するモデル・ライセンスについて
 - ICOLC#15の議題候補について

主要テーマ



- 電子ブックについて
 - ebooks.comグリル
 - 電子ブックの価格モデルに関する討議
- 電子ジャーナル環境下における雑誌取次業者の役割
 - Ebsco , Swetsからの提案
 - 事例報告
 - 討議
- 非営利系電子ジャーナル・サービスの現状と問題点
 - ALPSP , MUSE , Euclidからの報告
 - 問題点と対応
- 電子ジャーナル・アーカイビング
- e-ILLの促進

ebooks.com



- ebooks.com
 - オーストラリアに本拠を置く電子ブック提供者
- EBL (EBook Library)
 - 140出版社の25,000タイトルを含み, 主題はSTMが中心
 - 図書館(CERN, ノースカロライナ州立大学, イェール大学, カーティン工科大学), 出版社(OUP, CUP, Taylor&Francis, Kluwer), Adobe社をパートナーとしてサービスの設計
 - 2004年6月に正式リリースの予定
 - 価格モデルは, 基本プラットフォーム料と利用冊数に応じた追加料金から成る年間利用料金制(複数利用者の同時アクセス可能)
 - 図書館業務システムとの統合, Z39.50対応, OpenURL準拠, IP Proxy認証, オンライン・ブラウジング, ILL対応, 利用統計データの提供等の機能を準備中
 - コンソーシアム向けの提案については, 現在いくつかの可能性について検討中

電子ブックの価格モデルについて



- 電子ジャーナルと同様に、支払った金額の価値 (value for money) を高める方策が必要
- 図書館コンソーシアムと出版社の両者にメリットのあるwin-winのシナリオが描けなければ電子ブックはこれ以上普及しない
- 冊子体とのバンドル価格の検討が必要ではないか
- 電子ブック・サービスに含まれるタイトル数が増加し、それに伴い価格が上昇していくと、支払いが困難になるおそれがある

Ebscoからの提案



- 電子ジャーナル環境下におけるEbscoの役割
 - 情報提供, 資料収集, アクセス支援, 経営支援, 評価活動
- コンソーシアムに対応するための組織再編
 - 地域(または分野)コンソーシアム専門部門の設置
 - 出版社対応として, オンライン・リレーション・チームを新設
- コンソーシアム向けの具体的なサービス
 - コンソーシアムのニーズの掘り起こし
 - 現コレクションと希望タイトルリストの調整
 - 出版社のコンソーシアム対応方針の提供
- その他支援業務
 - ウェブサイトにおける電子ジャーナル関連情報の提供
 - ライセンス契約関連のアドバイス

Swetsからの提案



- コンソーシアムに対する貢献
 - コンソーシアム業務のアウトソーシング先としての機能
 - 出版社との商取引経験の豊富な仲介者として、出版社に対して提言を行い、交渉ができる
 - 複数ベンダーのコンテンツを単一のインターフェイスで管理し、利用に供するゲートウェイを提供する
 - 標準化(モデル・ライセンス策定、標準価格モデルの提案)への貢献
- コンソーシアム向けサービスの実績
 - シングル・エージェント(OhioLINK, NESLI)
 - SwetsWiseによる電子ジャーナル管理(CIGAR, アイスランド)
 - Eライセンスの仲介と管理(ベルギー, ギリシア, アイスランド, 韓国, スウェーデン)
 - 出版社との特定契約の管理(英国RESCOLINC等)

コンソーシアムと雑誌取次業者(事例報告)



- OhioLINK
 - 参加館全体の講読雑誌についてのシングル・エージェントとして Swetsを採用
- JISC NESLI2
 - 2003年から, 出版社との交渉を専門に行う独立代理人として Content Completeと契約
 - Content Completeの採用により, 交渉に係るコストを大幅に削減することができた
- California Digital Library (CDL)
 - 電子ジャーナルの管理支援業者としてEbscoを試行的に採用
- EPSCoR Science Info Group
 - Ebscoと非排他的な契約を結び, インボイス関連業務を外注

雑誌取次業者の役割



- エージェントに適合する役割とそうでない役割がある
- 単なる仲介業だけでなく、コンテンツ・ビジネスへの積極的な参入を考える必要があるのではないだろうか
- 大手出版社との交渉には不要だが、小規模出版社への対応には必要なのではないか
- アーカイビングについては、営利企業である取次業者がこの役割を担うのは難しいのではないか
- コンソーシアムの資産の管理業務も候補のひとつとして挙げられる

ALPSP



- ALPSP (Association of Learned and Professional Society Publishers) は、欧州の中小学協会を中心として27カ国272機関が参加する出版者協会
- ALPSP Journals Collection
 - Swetsが販売代理店
- コレクションには271誌が含まれているが、そのうち90%が査読付き雑誌
- コンソーシアム向けの価格モデルは2005年に向けて提案

Project MUSE



- 1993年にJohn Hopkins Eisenhower LibraryとJohn Hopkins大学出版会が開始した非営利プロジェクト
- 現在は、人文社会系の30以上の中小出版者が刊行する200誌のフルテキストを提供
- 現状の価格モデル

(パッケージ)	(リスト価格)
芸術・人文	\$12,000
社会科学	\$9,500
ジョン・ホプキンス大学出版局	\$4,600
全パッケージ	\$17,000

 - * パッケージ価格は、冊子体合計価格の90%以下。
 - * コンソーシアム向けには参加館数に応じて、ボリューム・ディスカウントがある。
- MUSE価格研究プログラムを発足させ、2005年から新価格を適用予定

Project Euclid



- Euclidはコーネル大学図書館のプロジェクトであり、数学と統計学分野の独立系出版者及び学会系雑誌のためのオンライン情報コミュニティの形成をめざす
- メロン財団とSPARCから助成金を得ており、Sun Microsystemsがパートナーとしてプロジェクトに参加
- 現在22誌が利用可能
- サブスクリプションはNylink(ニューヨーク州及び周辺地域のコンソーシアム)が扱っている。(注:日本向けのエージェントは紀伊国屋!)

問題点とそれへの対応



• 問題点

- 冊子体から独立したEJ価格 冊子体の講読数減少 学会等の収入減(参加出版者)
- 硬直化したパッケージ販売に対する不満(図書館)
- 不安定な財政基盤(サービスベンダー)

• 対応

- 非営利系電子ジャーナル・サービスは、「我々の仲間(our friends)」
- 共倒れを回避し, win-win(共存共栄)の道を探る必要あり

アーカイビング



- Ann Okersonの報告
 - JSTOR, Elsevier等各社のアーカイブに関するライセンス条項を中心とした報告
- 報告に基づく議論
 - アーカイブの議論は、「危機管理」に関わる問題であり、図書館長も巻き込むべきだ
 - 図書館が個々の出版社と交渉するのではなく、例えば“archive.com”のようなサービスの形成を促し、そこと契約を結ぶという選択肢も検討すべきではないか
 - アーカイブを形成し維持していくには、技術面での負担もさることながら、管理面でのコストが大きな比重を占める
 - 利用許諾契約に、アーカイブ・データの利用に関する図書館の権利を明記する必要あり

e-ILL



- e-ILLとは
 - 電子ジャーナルに含まれる論文のILL利用(特に電子媒体での直接送信)
- 低迷の原因
 - 電子ファイルの直接送信を容認する出版社が少ない
 - 通常のILLのルーティンからはずれる
 - 出版社毎に異なる利用条件の把握が困難
- 改善のためのアクション
 - [ICOLC Interlibrary Loan Project](#)
 - DLF (Digital Library Federation) の電子情報資源管理プロジェクト
 - 『電子的情報の選択と購入をめぐる現在の情勢と望ましい方向への実行策に関する声明』の更新(e-ILL利用の容認を求める)

今後の会合について



- 今後の会合のあり方
 - 2004年以降, 米国と欧州が協調して, 年2回開催 (春 - 米国, 秋 - 欧州)
- 2004年の開催予定
 - ICOLC#15 2004年3月 ニューオーリンズ
 - e-ICOLC#6 2004年秋 バルセロナ

提言



- もっと多彩なコンソーシアム活動を
 - 電子情報資源の共同購入
 - 電子ジャーナルやデータベース(だけでなく)
 - 電子ブック
 - 視聴覚教材
 - e-ILL, アーカイビング, デジタルレファレンス, 機関リポジトリ, 情報リテラシー教育, 等々
- 国際連携の推進
 - 国際会議(ICOLC, e-ICOLC)への継続的参加の必要性
 - 日本からの情報発信, 貢献の必要性

参考資料等



- 坂上光明訳. 電子的情報の選択と購入をめぐる現在の情勢と望ましい方向への実行策に関する声明. 大学図書館協力ニュース. 22(6). p.1-4(2002)
- 村上泰子. International Coalition of Library Consortia (ICOLC)の動向. 情報の科学と技術. 52(5), p.266-271(2002)
- 尾城孝一. 国際図書館コンソーシアム連合 (ICOLC: International Coalition of Library Consortia) 第12回会合報告. 大学図書館研究. 67. p.28-36(2003.3)
- 松本和子, 井上修, 尾城孝一. 国際図書館コンソーシアム連合 (ICOLC: International Coalition of Library Consortia) 第14回会合参加報告. (2003)

[\[http://home.q00.itscom.net/ojiro/ICOLC14.pdf\]](http://home.q00.itscom.net/ojiro/ICOLC14.pdf)